

# 安心して下さい！ 防災やっていますよ！

シリーズ『防災・思いの丈』。今回は「まち・町・街とは？」について考えてみましょう。

色々な場面で使われる「**まち**」という言葉。私たちは普段から当たり前のように使っている言葉です。ところが活字になると、3つの言葉が存在することに気が付きます。ひらがなでは「**まち**」、漢字では「**町**」と「**街**」です。これらはどの様な違いがあるのでしょうか？ネット辞典「コトバンク・デジタル大辞泉」で調べてみました。すると『まち【町／街】』は一緒の解釈となっており、次の通りです。

住宅や商店が多く人口が密集している所。都会。

「街」とも書く。商店の並ぶ賑やかな場所。市街。

地方公共団体の一。市と村の中間に位する。

市や区を構成する小区画。

田の区画。区画されてある田。

人家が密集し、道路で分かれた一区域。

物を商う店の集まった場所。市場。

宮殿または邸宅内の一区画。



すべて一緒？少々疑問がわき上がります。そこで漢字そのものの意味を学研「漢和辞典」で調べました。

『町』の成り立ちは、田と丁を合わせた字。丁子形にまじわっている田のあぜ道のこと。のちに広く「まちの中を通る道」また「道で区切られた集落」もさすようになった。距離の単位としても使用され、一町は六十間で約109メートル。面積では、一町は3000坪で約9,930㎡。(100アール弱)。一方の『街』の成り立ちは、圭と行を合わせた字。きちんと区切られた町並みのこと。町並みを区切る大きな道。

どうも解るようで判らない？簡単にうまくこの言葉を「自分たちのまちは自分たちで守ろう」「自分の住む町」「おしゃれな街」等と使い分けています。

でも、少し見方を変えて考えてみましょう。先進の技術を取り入れ、免震・制震の技術で造られた「**ハイテクのまち**」。でもこの「まち」に人間（ひと）が一人も住んでいなければ「**廃墟、廃屋**」です。だったら「ひとが住むこと」で初めて「まち」と呼ぶことができるのではないのでしょうか。「まち」＝「ひと」と考えられます。その「住むひと」に長期ビジョンを掲げ、創り上げることで「まちづくり」が進みできあがっていくはずです。そう！「**まちづくり**」とは、「**ひとづくり**」であり、「ひとづくり」に取り組むことが重要となります。いくら凄いハード



を造り上げても、ひとづくりができていなければ「まち」は壊れ失われてしまうのです。

更には、今の瞬間の「まち」を造るのではなく「**10年後のまちの姿**」を考えるような長期計画の「まちづくり」が必要です。その為には、どの様なことを考え、どう行動しなければならないのでしょうか？ところが10年後を語ると、次のような意見をよく聞きます。「10年先には居ない、今を何とかしたいのだ」。確かに今を何とかしたい！気持ちはよくわかります。でも、大切なことは「今の時代」は次の世代から預かっている意識を持つことであり、今の時代より更に良くして次に繋げる！それが「伝え、創り上げる」ということになるのです。

その為重要なヒントがあります！それは『**自分のまちを好きになること**』です。自分の町はこんなに良いまちだ。「ここに住み続けたい！」だから、この町に永く住む為に必要な行動「災害のやり過ごし方である、防災・備え」を学ぼう！となるのです。

加古川グリーンシティは、1986年7棟584世帯、約2000人が暮らすマンションとして誕生しました。阪神淡路大震災をうけて、色々な活動が活発に開始。その中でも『**楽しくなければ防災の輪は広がらない、楽しく防災活動をやろう！**』と、「楽しく」をキーワードにしたことで、「防災力・防犯力・地域力」が飛躍的にアップしました。そこにはもう一つのキーワード『**生活防災**』の啓発も鍵となったのです。

「**楽しく+生活防災**」の効果で、町の人々が持つ信頼関係や人間関係が豊かになりました。今風に云うと「**ソーシャル・キャピタルの確立**」。

簡単に言えば「**住みやすい町ができた**」と云うことです。10年前にNHK『**ご近所の底力**』に出演した際に『**コミュニティをつくるのが難しいと言われるマンション。こんなマンションでもできた**』と紹介されました。しかし、10年経ってグリーンシティのまちづくりが全国的に評価されると『**逆にマンションは色々やりやすい**』と、考え方が大きく変化しました。実際の所、マンションであろうが戸建てであろうが「**やる気**」だけの問題です。



では、何の為にやる必要があるのか？それは定義されていれば答えを出すのは簡単なことです。「**地域活動を行うのは、何処かの誰かの為ではなく、自分の為、家族の為、大切な人の為**」と定義していれば、答えは簡単！防災を通して、住みやすい町を作りコミュニティ力をアップする。すると「**楽しく住み続けたいまち**」ができあがるのです。

『**災害の為に防災！誰かを守る為に防災！**』これでは「備え・構え」は永続きしません。何の為に活動かを定義する・・・そう『**何の為に**』は、凄く重い言葉なのです！ 次回～「イソップ童話から学ぶ防災」